

# 「これからの公共施設と地域公共交通のあり方に関する市民懇談会」の 地域公共交通に関する主な自由意見・ご感想(アンケートより抜粋)

※カッコ内は会場名(地区行政センター)

精明・川崎地区及び中藤上郷から下郷地区に是非コミュニティバスの運行をしていただきたい。市内への通勤・通学・病院等への通院のため、元加治駅の南口開設にもっと力を入れてください。(加治東)

JR川越線の本数を増やしてください。双柳循環(路線バス)ができて大変便利になり良かったです。時刻表を広報等に載せていただきたい。(双柳)

名栗、原市場、南高麗、精明(双柳、富士見を除く)が大変だと思う。これらの地域の中に、拠点を作り「路線の減少」とか工夫が必要。タクシー会社と何らかの協定を結べないだろうか?(富士見)

現時点での心配事は、①利用者の減少で駅が廃止にされないか。②高齢になっていくので、いつまで運転できるか。(東吾野)

万が一の事故を考えると、運転サービスへのボランティアに踏み出せない人は多いのではないだろうか。どんな支援を行政が行っているのか具体的にアナウンスしてみると変わるかもしれません。(東吾野)

人口減少と少子高齢化は、公共交通の維持に関して多大なダメージを与える問題だと思います。利用者の減少はどうしても避けられないものなので、現状をどれだけ維持できるかを念頭に考えていかなければならないのではと感じました。(精明)

ワンコインゾーンの取組があり、バスを利用しやすくなった。気軽に使えるようになり、とても有り難く感じている。交通費が出ない距離だが、この金額だと払うことができる。お店とバスのタイアップができないか。バスを利用してお店に出向いた方へポイント等(飯能中央)

現在、路線バスについては、利用者が少ない路線等も大型のバスが運行しているので、無駄な部分がある。本線の区間を決め、本線は大型のバスを運行し、利用者が少ない路線等は小回りの利く小型のバスを運行して本線に連結させるようにしたら良いと思う。(第二区)

南高麗→山王峠経由の検討をお願いしたい。特に、夕方から夜便(南高麗)

できる限り路線バスを利用したいと考えている。飯能駅南口→ひかり橋→下畑→間野黒指、このようなルートもできないだろうか。ご検討ください。(南高麗)

前ヶ貫、矢嵐地区には足がない。マイクロバスなどのコミュニティバスがあれば助かるのですが。数年後の高齢化を考慮すると、丘陵地であるので、実に不安になる。(美杉台)

たすけあい吾野において、市から車を借用し、買い物等の利用に運行して、運転手がボランティアとして活動しているが、高齢化等により運転手の確保が課題である。ボランティア活動等についての人材を育成してほしい。(吾野)

吾野地区の場合、鉄道はあるが、駅までの移動交通手段がなく、遠い人は自宅まで約7kmある。これらの人(高齢者)の交通手段をすぐにも検討してほしい。スクールバスの利用方法も検討してほしい。(吾野)

名栗地区のバス料金を安くしていただけると有り難いです。(名栗)

今ある既存の鉄道、路線バスは、是非維持していただきたい。地域の交通を公と民(住民主体)に分け、それぞれの役割を明確にする。行政は公を担う(鉄道、バス、命に係わる交通、学校への通学など)住民は、買い物や地域活動に伴う交通を担う。その際、車輛の提供や保険代を行政が、運転ボランティアなどの確保を住民が分担する。「ここに住み続けていいんだよ」というお墨付きを。(原市場)

①西武線飯能駅周辺の踏切について、ストップしている時間が長い。→高架が必要②東飯能駅周辺について、八高線踏切、西武線踏切と続き、動かない時間がある。→バイパスができたが、解消されていない。③区画整理事業の早急な終了で、道路の流れがスムーズになる。(加治)



貴重なご意見をありがとうございました。市民の皆様のご意見を踏まえ、今後の公共交通のあり方について検討いたします。

リニューアル



# 飯能市公共交通ニュース

Vol.35 2017. 2. 1

## 地域でまもり！地域で育てる！公共交通

地域での生活を続けていくために、地域公共交通は欠かせないライフラインです。現在、市では、平成26年3月に策定した「飯能市地域公共交通基本計画」に基づき、地域の皆様と事業者とともに公共交通の維持・確保や利用促進事業等に取り組んでおります。

しかし、人口減少や少子高齢化の影響により、路線バス及び鉄道の利用者は減少傾向にあります。また、市内には交通不便地域や交通空白地域もあり、移動交通手段の確保が課題となっております。

このようなことから、それぞれの地域内を運行している既存の公共交通を維持確保していくほか、山間部や路線バスが運行されていない地域の新たな移動交通手段について、地域の方々、事業者、そして市が一体となって検討し、それらを持続可能なものとしていくことが重要となります。

これからも、積極的に公共交通をご利用いただくとともに、地域に必要な移動交通手段と一緒に検討していただきますようお願いいたします。

### 地域公共交通を取り巻く現状・課題(路線バス)

路線バスについては、少子高齢化や自家用車の保有台数の増加などの影響により、利用者が減少しております。本市を訪れる観光客数は増加していますが、通勤・通学等の日常生活での利用者数の減少を埋めるには至っておりません。平成28年6月に、国際興業バスの一部路線では、不採算路線の輸送力調整として大幅な減便が実施され、路線沿線住民のおでかけが確保できないといった問題も少なからず出ております。



### 国際興業株の「飯能営業所の存続及び今後の同営業所の運営に関する協定書」を締結しました！

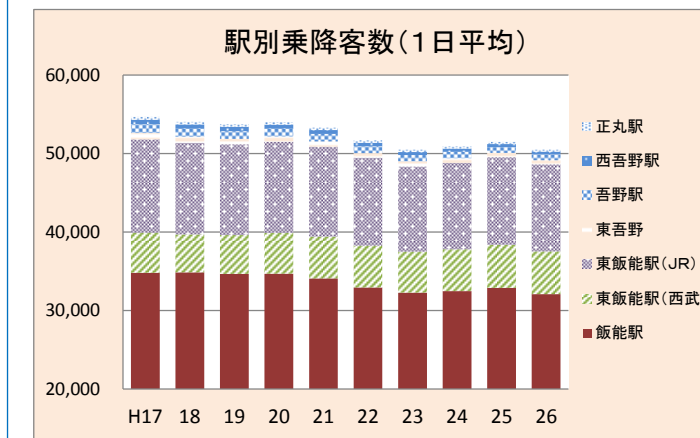
現在、平成26年4月1日から平成29年3月31日までの期間とする「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定書」が、飯能市と国際興業株式会社において締結され、国際興業バスの運行が継続されております。

なお、平成29年4月1日から平成32年3月31日までの3か年の運行継続についても、平成28年10月27日に協定書を締結いたしました。これにより3年間の営業所の存続は確保されますが、利用状況等によっては、一部路線の減便・廃止もあり得るものとなっております。

### 地域公共交通を取り巻く現状・課題(鉄道)

鉄道については、東飯能駅を除いた全ての駅で乗降客数が減少しており、平成17~26年度までの10年間の増減率は、山間地域の全ての駅で20~40%程度と大幅に減少しております。しかし、西武池袋線の東飯能駅については、増減率が7.8%と増えております。

今後は、引き続き、鉄道の相互乗り入れや輸送力増強の促進、駅周辺の良好な交通環境の確保など、市民の利便性向上と、まちの機能性向上に向けた取り組みを進めてまいります。



## 要望活動を行っています！

八高線八王子・高麗川間複線化促進協議会、JR川越線整備促進協議会、八高線電車化促進期成同盟会に参画し、JR東日本旅客鉄道に対して整備促進等の要望を行っています。

### 《主な要望内容》

- 八高線八王子・高麗川間複線化促進協議会
- JR東日本八王子支社(8月2日実施)
- 「八王子~高麗川駅間(南線)の早期複線化」
- 「八王子~大宮駅間の東京の電車特定区間」など

### (今後の実施予定)

- JR川越線整備促進協議会
- JR東日本八王子支社・本社・大宮支社(1月26日予定)
- 八高線電車化促進期成同盟会
- JR東日本八王子支社(2月20日予定)
- JR東日本高崎支社(2月21日予定)



# 「これからの公共施設に関する市民懇談会」 における市民の皆様のご意見

平成 28 年 11 月 25 日から 12 月 17 日にかけて、各地区行政センター（全 13 か所）を会場に「これからの公共施設に関する市民懇談会」を開催しました。

公共施設の現状や課題、今後の方向性など全体的な考えを共有し、今後の公共施設のあり方について市民の皆様と一緒に考えていくスタートと位置づけ、計 252 名の方にご参加いただきました。

市民懇談会での主なご意見・アンケートの内容について、市民の皆様にお知らせします。

市の問題として、このまま放置すれば老朽化が進み、崩壊を招くことになると思感した。早急に課題解決に向かう必要があると思った。

人口減少等による公共施設の適正化は難しいと思うが、高齢者対応、教育的問題を含め、管理費・人件費削減のためにも実践してほしい。

今後の人口構成を考えれば、集約化、スリム化、複合化は避けて通れない。ただ、地域が広い特性を考慮すると、地域の拠点となる施設は守ってほしい。

地区行政センターは地域活動の拠点施設である。必要性の高い公共施設は維持管理して残していくべきである。



各地区にひと通りの施設の配置ではなく、広域的な施設配置をしていかなければいけないと思った。

公共施設マネジメントについて、今後、民間活用も必要になってくると思う。

地区行政センターを小学校に入れるなど、施設の積極的な利用方法を検討してほしい。

稼働率を参考にして地区行政センターの耐震化を優先的に行ってほしい。

公共施設の耐用年数は、建設時から分かっていたことなのに、なぜ今になって公共施設問題が出されているのか。

今後、施設の利用については受益者負担を検討してはいかがでしょうか。

貴重なご意見をありがとうございました。

現在策定中の「飯能市公共施設等総合管理計画」においては、市民の皆様のご意見を踏まえまして、今後の公共施設等のあり方や方針等をお示ししたいと考えています。計画（素案）の公表につきましては、2月1日号「広報はんのう」をご覧ください。

【お問い合わせ】飯能市財務部管財課資産経営室

●電話 978-5027（直通）●ファックス 974-6770 ●メールアドレス sisankeiei@city.hanno.lg.jp

## 「これからの地域公共交通に関する市民懇談会」における市民の皆様のご意見

懇談会では、各地域におけるこれからの地域公共交通はどうあるべきかについて、市から現状や課題をお伝えするとともに、ご参加いただいた皆さまからたくさんのお考えやご意見等を頂戴しました。その一部をご紹介します。

ご意見・ご要望の内容（要旨）	回答内容（要旨）
高齢者の運転による自動車事故が全国でも問題となっている。免許を返納しても問題なく他の交通手段の利用ができ、何か特典があれば返納したいという方も多いのではないかと。	高齢者の自動車事故については、市としても大きな問題だと考えている。現在、埼玉県警は、免許証の返納促進策として「運転経歴証明書」を持っている方が、協賛店等で特典を受けられる制度を実施しているが、市としても、問題の解決策を検討していきたいと考えている。
以前、自治会から元加治駅南口開設に関する要望書を市長に提出したが、その後フィードバックがない。今どうなっているのか伺いたい。	元加治駅については、駅、北口の駅前広場、駅南側ロータリーが、本市と入間市の2市にまたがっているため、本市の考えだけでは事業が進められない。現在、本市、入間市、西武鉄道㈱の3者において、元加治駅南口の早期開設に向け定期的に協議を行っている。
高齢者だけでなく、全ての住民にとって利用しやすい公共交通を考えていただきたい。	今後も既存の公共交通の維持・確保に努めながら、それぞれの地域の皆さまが安心して地域での生活を続けられるよう、既存の公共交通と連携した新たな交通手段を皆さまと一緒につくっていくことが重要だと考える。
精明東部の公共交通はないに等しい状況なので、高齢者の移動手段をどのように考えているのか。	路線バスは、利用がなければ減便や廃線は免れない。精明東部に限らず、市内の交通不便地域や交通空白地域については、利用したい方が利用できる移動交通手段でなければ意味がないと考える。今後、アンケートや意見交換、検討会などの中で必要な移動交通手段を皆さまと一緒に考えていきたい。
路線バスの運行本数が減少した地域、また、移動交通手段がない地域において、地域内を走るスクールバスに住民を混乗させることができないか。	スクールバスへの住民の混乗については、「飯能市地域公共交通基本計画」の中にも活用の検討を掲げており、現在、教育委員会とともに検討を始めている。スクールバスは、事業者と契約を締結し運行しているため、混乗する場合の課題や問題の整理を行うとともに、地域の方々のニーズ等を把握しながら検討を進めていくこととしている。
民間送迎バスの空席を活用して、一般市民も乗車させたらどうか。	既存の社会資源の活用については、法律の縛りもあり難しい状況もある。しかし、すでに実施している自治体もあるので、活用の可能性について調査を進めたい。
福祉センターのバスがもっと柔軟に活用できるようにならないか。走っているところを見かけるが、乗っている人が本当に少ない。	他の地域においても、同様のご意見を頂戴した。現状では、自家用車としてセンター利用者の送迎に限った利用となっているため、その他の社会資源の活用と併せて検討を進める。
市では、事業者に対し補助金を交付しているが、その分の金額を、運賃補助という形で利用者に対し交付した方が利用者増につながるのではないかと。	ご意見として承らせていただきたい。今後、様々な面から研究し数字的根拠を出したうえで、市民、事業者、市にとって最も効果的な補助金の支出を検討していく。
これまで以上に人口が減少した場合の対策ばかりではなく、今、市が推進している定住促進策を各地域で展開していただきたい。例えば、山間地域に市営住宅を建てる、調整区域の枠を外すなど。	市営住宅の新設、調整区域の枠を外すということについては、現状では大変難しいと考えるが、ご意見としてそれぞれの担当部署に伝える。お質しのとおり、人口の増加は市としての喫緊の課題であるため、今後も、定住促進や交流人口の増加について、さまざまな取り組みを進めていく。
高齢者にとって、大きな荷物を持って路線バスに乗るのは大変なこと。買い物したものをまとめて地区行政センターなどに届けてもらうようなシステムができないか。高齢者が、気軽に路線バスに乗れるよう検討していただきたい。	お買物宅配サービスについては承知している。調査はしていないが、そのようなサービスを実施する場合、どのような課題があり調整が必要か、また、ニーズがどのくらいあるかについて、今後、事業者とともに研究していきたい。
65歳以上の方が国際興業バスをフリーに利用できる「彩京のびのびバス」を活用している。大変ありがたい。もっと大勢の方に利用していただければ、バスの利用者増にもつながるのではと考える。	市としても、路線バスの運行している地域の住民の方に継続してバスを利用していただく方策の一つとして、市の広報紙や地区行政センターだよりへのお知らせの掲載などを実施している。今後も継続して路線バスの利用促進に努めていく。